



ほたる舞う学び舎 令和2年度(令和3年2月)号

学校だより



あきる野市立一の谷小学校 校長 池戸龍一

い 命・人権・平和を大切に
ち 力いっぱいがんばり
の 伸び伸びと
た 楽しく活動
に ニコニコ笑顔の絶えない
「いちのたに」の子

冬を乗り越えると 春が待っている

校長 池戸 龍一

今年は、2月2日に節分を迎えます。節分は春夏秋冬の節目ですので、年に4回訪れますが、春を迎えるこの節分は、長くて辛い冬を越えて、新しい年を迎えるとのことから、昔から人々は大切にしてきたのでしょう。日本中がコロナ禍を乗り越え、春を迎えることができることを祈っています。

節分と言えば2月3日の印象が強いのですが、立春の日は、1年間を太陽の動きに合わせて24等分した「二十四節気」で決めるため、毎年、国立天文台が天文観測に基づいて決めていて、今年の立春は2月3日。つまり、節分の日はその前日の2月2日とのことです。ここ37年間はずっと2月3日でしたが、37年前は2月4日。節分が今年と同じ2月2日になるのは実に124年ぶりだそうです。

さて、本校では、「いじめ防止基本方針」に基づき、年に3回の「ふれあい月間」また毎月「みんなの日」（いじめを考える日）を設定し、いじめ防止に努めています。しかし、コロナウイルスの感染予防対策がもう少しで1年と長く続いており、ずっと頑張り続けている子供たちの心身の健康が心配されます。2月は今年度最後のふれあい月間となりますので、先日の「みんなの日」に行った全校朝会（校内テレビ放送）では、節分と鬼退治に触れながら、友だちの大切さについてのお話をしました。



昔から節分には「鬼は外、福は内！」と言って豆をまきますが、これは中国から伝わったもので、日本でも、昔、京都の鞍馬に鬼が現れた時に、天からお告げがあり「魔の目」に豆を投げつけ「魔を滅する」ことができたという言い伝えがあります。

昔から、日本では悪者を鬼に例えてきました。大きな話題となったアニメ「鬼滅の刃」でも鬼を退治します。でも、道徳で勉強する「泣いた赤鬼」に出てくる鬼は決して悪者ではなく、むしろ友達思いの優しい鬼です。

そう考えてみると、鬼にも家族や友達がいる、家族を守るために一生懸命、頑張っている鬼もいるかもしれません。実は、鬼が悪者とされてきたのは、人の大切にしているものを奪ったり、傷付けたりすることを、鬼に例えてきたからなのです。ですから本当は鬼が悪いのではなく、人を傷つけることが悪いことなのだと思います。

大切なこととして、皆さんに伝えたいことは、相手のことを見かけや思い込みだけで判断してはいけないということです。人は、それぞれ違います。勉強が得意な人もいれば、運動が得意な人もいます。人を笑わせるのが得意な人もいれば、じっくり慎重に考えることが得意な人もいます。みんな、違っていいのです。

性格や考えが似ていて気の合う友だちはもちろん大切です。でも、そうでない人も大切な存在なのです。これは、好きなものを食べると元気になりますが、好きなものばかり食べていると、栄養バランスが悪くなり、健康な体ができないのと同じです。

だから、いろいろな人の集まりであるクラスや学校の友だちとの出会いを大切にしましょう。自分と違う考えの人のことも理解しましょう。そして、その人のいいところを見つけてみましょう。

2月は「ふれあい月間」となります。誰かを仲間はずれにしたり、差別したり、傷付けたりする心の中に潜んでいる鬼を追い出し、自分と違うけれども、一人一人がもっているいいところを見つけて、素敵な一の谷小学校を、さらに素敵な学校にしていきたいと思います。

